



第10回：近世③ 補足

政治家たちの文章

新井白石…折たく柴の記(随筆、自叙伝) 読史余論(歴史書)

日本史選択者は、西洋紀聞(西洋研究書)、采覧異言(世界地理書)も覚えよう！

儒学

林羅山…(江戸幕府公認の朱子学を確立)

新井白石

荻生徂徠

室鳩巢…駿台雑話(随筆)

随筆まとめ

本居宣長	玉勝間、うひやまぶみ(国学への入門書的随筆)
新井白石	折たく柴の記
室鳩巢	駿台雑話
松平定信	花月草紙
加藤千蔭	うけらが春(国学者・歌人の加藤千蔭が、自身の歌と随筆を集めた歌文集)

文学理念

さび	芭蕉俳諧／自然と一体となり、寂しさに徹した閑寂・枯淡を慕う心が、自然と句の上に現れている美しさのこと。
しをり	芭蕉俳諧／荒々しいものでも優しく、太い感じのものでも細くしなやかに整っている句の姿のこと。
細み	芭蕉俳諧／繊細な感情によって対象物をとらえることに生まれる句の在り方。内的な深みがでていること。
軽み	芭蕉俳諧／人事に取材して、平俗なことをより高みの詩的な美へ昇華させた境地。芭蕉はこれを晩年に高めた。「芭蕉七部集」の「炭俵」はその代表的な選集。
虚実皮膜論	近松門左衛門／芸は、「虚(=虚構・誇張・美化)」と「実(=事実の描写)」との間にこそ成り立つのだという考え方。



粹	近世前期／浮世草子・浄瑠璃など／社会的に洗練された享楽精神を有すること。野暮の反対。
通・意気	近世後期／洒落本など／通は遊里の事情や趣味生活など遊びの方面によく通じていて、失敗しないこと。意気は都会風に洗練されて垢抜けした美で、内に清澄な生気を含んでいるもの。
勧善懲悪	近世後期／読み本・人情本・合巻・歌舞伎脚本など／善を勧め、悪を懲らしめるという道徳的主張。